

江戸図屏風の世界をのぞいてみよう

— 木更津船編 —

袖ヶ浦市立昭和小学校 柳井 美重子
(前任校：木更津市立請西小学校にて実践)

1. 実践学年：小学校第6学年 教科・領域：社会科

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

①主題名：江戸図屏風の世界をのぞいてみよう — 木更津船編 —

②ねらい：

【学習指導要領との関連】

本単元は、学習指導要領の内容（1）のオに相当する*¹。「歴史を学ぶ意味を考える」ということは、単に過去の事象を理解するだけでなく、今の自分たちの生活に関わっていて現在や将来の生活に生かすことであるとしている。そして歴史教育の目標を学習指導要領では、歴史を学ぶ意味を児童自身に考えさせることであると明示している。

また、内容学習においては、地域の博物館や郷土資料館の学芸員から解説を聞くことは、歴史的な事象を具体的に理解する上で有効な手立てと明示している。

【単元のねらい】

- ・江戸図屏風から江戸時代の人々のくらしや社会の様子について進んで調べようとすることができる。（関心・意欲・態度）
- ・江戸時代における木更津船の様子から、木更津と江戸のつながりを関連させて考えることができる。（思考・判断）
- ・博物館の遺物、写真、古文書や江戸図屏風などから江戸時代の社会や人々の様子を読み取り調べたことをノートにまとめることができる。（技能・表現）

③博物館との関連

【博物館との関わり】

博物館のモノや人材を活用することで有効なことを以下のように考える。

○博物館と連携することのメリット

- ・博物館の実物に触れることで、ものに対するイメージがより確かになると考えられる。

*1 文部科学省 平成20年度版 小学校学習指導要領解説「我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。」に相当する。具体的内容は、オ「キリスト教伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国について調べ、戦国の世が統一され、身分制度が確立し武士による政治が安定したことが分かること。」

- ・博物館の人材（学芸員やスタッフ）を活用することで専門性に触れることができる。
- 博物館のアウトリーチを活用するメリット
 - ・博物館に行かなくとも博物館の資料に触れることができる。
 - ・博物館の展示から学習に必要な資料だけを提示することができる。

このようなメリットが考えられるが、博物館に見学に行けない場合や、地域の博物館には行けるが歴博に行けない場合や行ける場合、また、地域の博物館に行ける場合と行けない場合も考えると様々な学習計画が考えられる。ここでは、3つのパターンを想定した。

博物館との連携における3つの想定パターン

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① どの博物館にも見学に行かない場合 ② 地域の博物館に行く場合 ③ 歴博に行く場合 |
|--|

3. 指導計画

「木更津船」を主題名の副題として付けたのは、対象校（前任校：木更津市立請西小学校）の児童にとって木更津船が身近な教材だからである。そこで木更津船について追記したい。

【地域教材としての木更津船】

江戸図屏風の左隻2扇の下部にある日本橋の魚河岸小網町の対岸には、木更津船*2専用の木更津河岸が描かれている。河岸には材木が積まれ、河岸近くには多くの往来船がある。船は大きく2種類あり、高速船と言われ鮮魚を主に運搬する押送り船と、房総から、年貢米や薪炭、旅客を運行する五大力船がある。木更津船は、五大力船とも言われ、海と川の両方を運行する便利な船である。請西小学校の北側には矢那川があり、かつては荷だしのための河岸があったとされる。荷出しの際の「やっさい（矢崎）、もっさい（森崎）」のかけ声は、河岸の地名に由来していると言われている。児童にとっては身近にある場所である。

上記の視点から単元を組み立てる。歴史を学ぶ意味を児童に考えさせるために、今と過去を繋ぐ事物事象を学習内容で扱う。指導法の工夫としては、博物館の展示と学芸員の活用である。また、教材を通して地域の博物館と国立歴史民俗博物館（以下歴博）を繋ぐことができる。そこで、江戸図屏風の一場面を切り取り、今（東京湾アクアライン）と過去と繋ぐ地域教材である木更津船を扱い、博物館展示と人材を活用することとする。これは、地域教材をきかっけに江戸図屏風全体を読み解くことになる。児童は、これらを通じて、江戸時代（家光の治世）の政治や社会の発展に果たした役割を考えることができる。また、

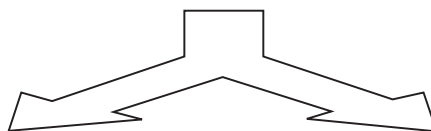
*2 大坂夏の陣の折りに、木更津村の漁師24名を水主として出陣させたことに由来し、戦死した12名の家のために河岸の権利と近隣の藩の年貢米、薪炭、旅客運送の権利を幕府から贈与された。川奉行（荷改め）の改めなしに江戸城下に入ることができた。

絵画資料の見方や考え方を身につけるきっかけとなり、絵画資料から多くの事象を読み取る資料の見方、考え方を身につけさせることをねらっている。そこで、博物館からのアウトリーチ（資料の貸し出し）を活用する。アウトリーチする教材は、江戸図屏風のほぼ実物大の床置き用江戸図屏風パネル（この教材を扱うために歴博で作成していただいたもの）と、場面を切り取った江戸図屏風の河岸の場面のパズル（歴博既存のもの）を導入で扱うこととする。

次の展開では、木更津船のレプリカ（市内小学校所蔵）と木更津船の由緒書（古文書）を取りかかりに木更津船の役割にせまり、児童に木更津船への関心と江戸へ役割について疑問を持たせる。その後の児童の調べ学習の手立てとしては、木更津市郷土博物館を全員で見学できればよいが、そうした環境にない場合も想定できるので見学可能の場合と不可能の場合の両方の案を提示したい。調べ学習の手立ては、地域の図書館の文献資料、インターネット検索上の資料（博物館に行けない児童の手立て）がある。また地域の博物館や歴博の活用（博物館に行ける児童）を促し、児童の追究は、児童の意志に任せることにする。その後、児童が調べたことを共有する授業を展開したい。終末には、切り取った木更津河岸を江戸図屏風に再度はめ込むことから、屏風全体の読み解きを博物館の人材を活用し展開する。

【指導計画】 4時間扱い：社会科

過程	時間	学習内容	博物館との関わり
ふれる	1	江戸図屏風から見える世界って？ 江戸図屏風全体から気づくことを発表する。 河岸のパズルを組み立て、河岸の存在を知る。 江戸図屏風から木更津河岸を探す。 木更津船の存在を知る。	床置き用江戸図屏風パネル（歴博） 魚河岸のパズル（歴博）
疑問を持つ	1	木更津船ってどんな船？ 模型の船が江戸図屏風のどこにあるか探す。 江戸城下が川や海に囲まれていることに気づく。 ・由緒書には何が書いてあるか。 ・木更津船は何を積んでいるのか。 ・河岸が日本橋近くにあるのはなぜか。	五大力船の模型（東清小学校） 木更津船の絵図 由緒書（木更津郷土博物館）

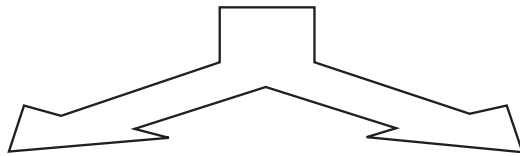


①博物館に見学に行かない場合

②地域の博物館に行く場合

調べる	時数に	木更津船と江戸の関係は？ ・学校でパソコンを使用する機会を児童の実態で設定する。	木更津船と江戸の関係は？ ・木更津市郷土博物館に行き、展示物や学芸員の解説などから自分の課題を解決する。
-----	-----	---	---

	含まない	<ul style="list-style-type: none"> 自分の疑問を家庭学習で調べる。 博物館や図書館に行くか行かないかは児童の考えや家庭の状況で決める。 	
考える	1	<p>調べたことを発表する。 今と昔を結びつけて事象を考える。 木更津船と江戸の関係について自分なりの考えを持つ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>木更津船は、房総半島の物資を江戸に供給し江戸の経済を支えていた。また、江戸の物資や文化も運んでいた</p> </div>	<p>五大力船の模型 (東清小学校) 木更津船の絵図 由緒書(木更津市郷土博物館)</p>



拡げる	1	<p>① 博物館に見学に行かない場合</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>江戸図屏風の世界をのぞいてみよう</p> </div> <p>歴博の人材を活用し江戸図屏風を読み解く。(出前授業)</p>	<p>③ 歴博に行く場合</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>江戸図屏風の世界をのぞいてみよう</p> </div> <p>館に訪れ第3展示室を中心に見学する。ガイダンスを受ける。</p>
-----	---	---	---

4. 実践の概要

本実践は、歴博と地域の博物館の双方と連携して授業展開をした。そこで、本稿の4の実践の概要では、歴博に関する部分を抜粋して報告させていただきたい。上記の指導計画上の主に1時間目と4時間目に歴博との連携があるのでその指導の概要を報告する。

本時の指導 1 / 4時間目 2008年11月10日(月) 3校時視聴覚室 10:30～

(1) 本時の目標

- ・江戸図屏風が様々な場面構成でできていることに気づくことができる。(興味・関心)
- ・木更津河岸の様子を読み取り、木更津船の存在を知ることができる。(技能・表現)

(2) 本時の展開

時配	主な学習活動と内容	指導上の留意点	資料
25	1 江戸図屏風から気づいたことを発表し合う。		床に江戸図屏風を敷く
	江戸図屏風からみえる世界ってどんな世界？		
3	①江戸図屏風についての概略を話す。	○自由に江戸図屏風を歩き回り全体をみるようにさせる。	ワークシート
10	②自由に歩きまわり気の付いたことをワークシートに書く。		
10	③気づいたことを発表し情報を共有する。 ・人がたくさんいる。 ・建物が多い、海や川がある。 ・雲みたいのがある。 ・場面がたくさんある。	○多くの場面を引き出させる。	
10	2 河岸のパズルを行い江戸図屏風のどの部分であるか考える。	○2人一組にパズルを行わせる。	パズル
5	①河岸の場面のパズルを行う		
5	②パズルが江戸図屏風のどの場面であるかを探す。	○場面決定の理由を話させる。	
	3 河岸の場面から気づいたことを発表する。		
10	①木更津河岸の場所を確かめる。	○河岸の場所を屏風全体のどの部分にあたるかを確認させる。	江戸図屏風
3			
7	②木更津河岸周辺の様子を観察する。 ・対岸に魚河岸がある。 ・違う大きさや種類の船がある。 ・魚や材木が乗っている。 ・人が釣りしている。	○ものや人の様子に目を向けさせる。	
2	4 木更津船の存在を知る。	○教師が船の名前を知らせる。	

（1）本時の目標

- ・江戸図屏風から見える事象に関心を持つことができる。（興味・関心）
- ・家光の時代の江戸の様子を江戸図屏風から読み取ることができる。（思考・判断）

（2）本時の展開

時配	主な学習活動と内容	指導上の留意点	資料
5	1 江戸図屏風から河岸以外の場面を読み取る	○河岸を確認してから河岸以外の場所を探させる。	江戸図屏風のレプリカ
	2 どんな場面があったか発表する。 ○朝鮮からの使節 ○鷹狩り ○船ぞろえ ○市場 ○寺	○建物や人物、動物などに目を向けるようにさせる	
	江戸図屏風の世界をのぞいてみよう		
	3 いろいろな場面の確認をする		

久留島先生による授業展開 ～ 35 分～

	4 単元全体をふり返り、家光の時代の江戸の様子を想像する。	○武士や町人、農民の生活に具体的なイメージを持たせる。	
--	-------------------------------	-----------------------------	--

授業では、江戸図屏風が様々な場面で構成されていることに気づき、更に木更津河岸の位置とその様子を読み取ることがをねらいとした。

江戸図屏風全体の場面構成に気づいた児童は、殆どいなく、江戸図屏風の中の人物、動物などに関心を多くよせていた。またワークシートから、児童は実物大の江戸図屏風の大きさや色遣い、全体の景色などに感嘆したり感心したりしてる様子がみえる。屏風全体の構成に目を向けることができていない。その理由としては、児童が絵画資料の見方を身につけていないことがいえる。次に木更津河岸の位置を知らせるために、日本橋付近の場面を切り取ったパズルを与えると、日本橋付近の様子を細かく読み取ることができた。例としては、初めは気づかなかった船の数や日本橋の人物や荷物の種類の様子が、ワークシートの記述からみることができた。これは、全体の読み取りは難しいが、場面を切り取ることで読み取る焦点を定めることができることを示している。



その後4時間目は、歴博からの出前授業を依頼して、再度江戸図屏風についての謎解きをし、家光の頃の江戸の人々の生活を考えることをねらいとして授業を実施した。授業は、1時間目で実施した江戸図屏風の読み解きを再度行い、はじめに、木更津河岸以外の場面の読み取りをした。児童の掴んだ内容は、始めの江戸図屏風の読み取りから比較すると大きく変化した。その後、歴博から第3展示室のタッチパネルのソフトを使って久留島浩教授（歴博）をゲストティーチャーとして授業展開をした。4時間目の授業については、歴博に見学に行くことが望ましい。久留島先生のような専門分野の人材を活用することは、児童にとって価値のあることである。即効性があるこうした人材活用は児童の知的好奇心を高めるといえる。当然であるが授業後、歴博に行ってみたいと答えた児童は、99%を越えた。

5. 成果と課題

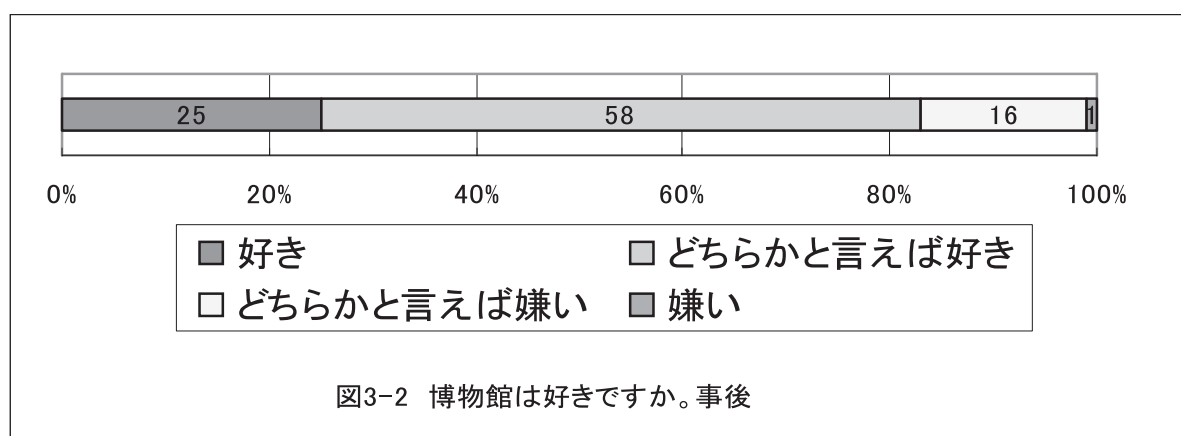
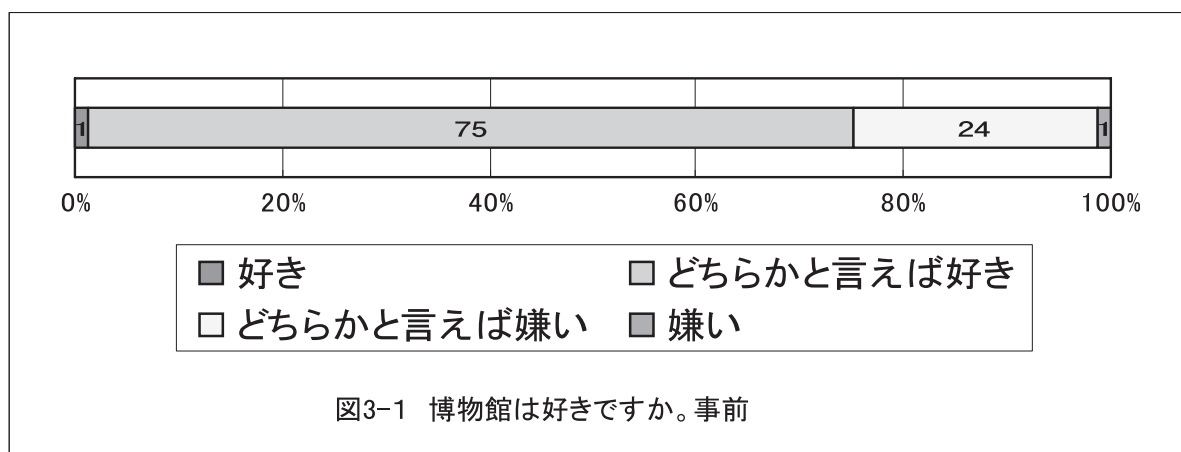
【成果】

○以下の資料から、江戸時代（家光の治世）の人々の生活が、1時間目の展開後と3時間目の展開後では江戸図屏風の読み解きに変化が起きていることがわかる。

1時間目	3時間目後
人物	金雲はなんのため？
男の人	川が多い
女の人	いろんな場所に川がある。雲に絵が描いてある
商人のような人	門を見張っている武士の集団
キジを退治しているちょんまげの人	船に赤丸の旗がある
おしりを出している人	日本の旗かな
白い服を来た人	何人も人引き連れた偉いそうな人
お坊さんがおがんでる	青っぽい皮膚の人がいるのはどうしてか
刀を持った人	京橋で文句を言われている人
着物を着て死んでいる鳥を持っている	増上寺？
アーチェリーをしている	8人から10人で船を漕いでいる
旗を持っている	店や家が多い
武士が扇子で何か指している	金雲は、場所を区切るため？
面をかぶって笑わしている。	森や花畑がある
田んぼを耕している農民	田んぼがある
その他動物・建物	金の建物や豪華な船がある
川	崖の上で傘をさしている偉い人
船	白い紙を付けた枝がたくさん
橋	将軍
金の雲	人で賑わっている
富士山	昔の江戸もなかなか賑やかでいいなあ
寺	鳥がたくさんいる
キジ・馬・犬	別の国の服装をした人がいる
五重塔	鳥やイノシシと狩りしている
江戸城	
日本橋	
お屋敷 籠 店	

読み解きが単語でしかなかったものが、文脈としてストーリーを組み立てていることがわかる。江戸図屏風の中に児童が進んで入り込んで見ていることから、学習意欲の向上が見られる。

- 地域の教材を通して江戸図屏風を見ることで江戸図屏風全体に目が向けられるように変化した。
- 授業前と授業後では、博物館に関する意識に変化があった。



* 図の 3-1、3-2 の資料は、平成 20 年度千葉大学大学院修士論文「社会科教育における博学連携の可能性」より抜粋

- 博物館が好きと回答している児童が増加している。曖昧に「すき」と回答した児童が授業後明確に意思表示している。
- 教科書教材の扱い方に博物館の資料を活かすことが、授業づくりにおいて有効である。
また、児童が自由に触れることのできるレプリカ（江戸図屏風床置きパネルなど）は、今回のようにアウトリーチを活用することで、物理的に手軽に見学できない歴博の活用法が広がった。
- 博学連携においては、教員と研究者も含めた博物館のスタッフと対話を持つことが何より重要なことと考える。授業を双方で考え作り出すことで、優れた教材や教具が開発されるのではないかと考える。また、博物館のもつ専門性が学校に活かされていく

はずである。そして、博物館の研究が、広くその有用性を認識させていくのではないかと考えずにはいられない。

【課題】

- 博学連携を理解している人材が少ないことで、連携の良さが十分に広がらないことが懸念される。知っている人だけが行う授業になってしまう。
- 歴博以外の地域の博物館の活用法にも視点を拡げることが、身近に博学連携を活かす手立てではないだろうか。
- 開発した教材を広報するために、博学連携を活かすことができないだろうか。
- 博学連携の取り組みを一過性のものとせず、継続し定着していく事業・授業として認識させていくことに多くの教員養成の立場からも取り組む必要がある。

6. わたしの考える歴博活用案

事前学習：本稿の指導計画の4 / 4時間目にあたる。地域教材を窓口江戸図屏風について学習した後に、最後の授業として展開する授業案である。本稿では、歴博に見学に行けない学校実践を載せたが、次の学習案では初めて、しかも1度しか歴博に見学に行けない学校を想定した。

6 学年	社会科	単元名	江戸図屏風の世界をのぞいてみよう	4 時間
------	-----	-----	------------------	------

①学習のねらい及び指導要領との関連

本稿 2 - ②と同様

②使用資料

江戸図屏風置きパネル（事前にて使用）：既存

江戸図屏風の無彩色ワークシート（ぬりえ）：存在していません。

③展開

過程	時間	主な学習活動と内容	指導上の留意点	資料
導入	5	1. 単眼鏡の使い方のレクチャーを受ける。 ・単眼鏡の扱い方を知る。 ・レプリカの見方を知る	○博物館のスタッフの説明を聞かせる。	単眼鏡
展開	35	江戸図屏風の世界を広げよう		
		2. 第3展示室の見学を行う。 ①江戸図屏風を単眼鏡を使って見る。 ②徳川家光のいる場面を探しワークシートに書く ③気になる場面を決める。 ・船の描かれている場面 ・動物が描かれている場面 ・朝鮮通信使など外国人のいる場面	○気に入った場所が見つかからない子には、動物や人物の数などを数える等の視点を変えて支援する。	ワークシート

まとめ	5	<p>④タッチパネルを用いてより詳細な様子を読み取る。</p> <p>⑤気に入った場面を観察し色えんぴつでぬりえに彩色する。</p> <p>⑥第3展示室の江戸図屏風以外の展示物を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸橋付近のレプリカを観察し江戸図屏風のどの場面であるか。 ・寺子屋体験をし江戸時代の学校の様子を体感する。 ・着物や生活道具を観察する。 <p>3. 江戸時代の人々の生活について自分の考えや思いをまとめる。</p>	<p>○単眼鏡を使って人々の生活の様子を見させる。</p> <p>○ワークシートにまとめさせる。</p> <p>○家光の治世が安定していたことを確認させる。</p>	江戸図屏風のぬりえ
-----	---	--	--	-----------

事後指導：本時では、まとめまでは展開しきれないことが予想できるために、個人のまとめにとどめる。その後、事後指導で、話し合い活動を取り入れまとめを扱う。